



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (19)
Author(s)	田盛, 正雄
Citation	琉大農家便り(109): 8-9
Issue Date	1964-12
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20936
Rights	

写真や図を中心にみる

琉球の農作物主要病害虫

(19)

病 害

そ菜類の苗の立枯病(コーテイシウム ソラナイによる)

宿主：160種類あまりの植物をおかし、ナス科のジャガイモ、ナス、タバコ、マメ科のインゲンマメ、などには甚だしく発生し、アブラナ科のタイサイ、ハクサイ、ダイコンなどにもよく発生する。

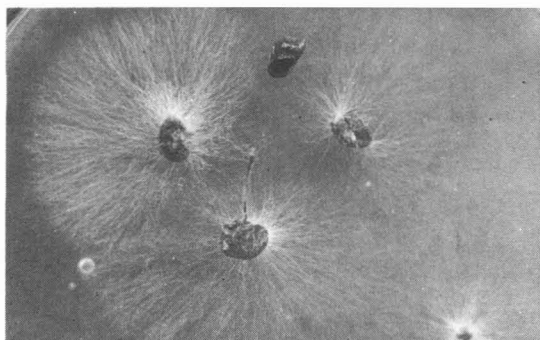
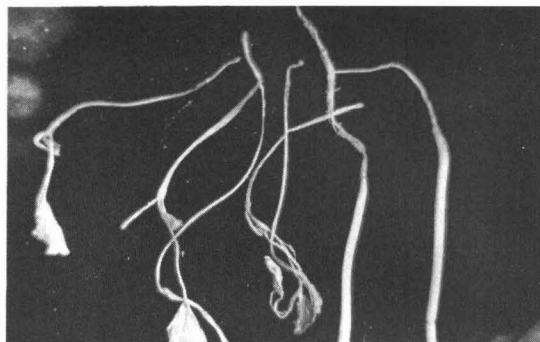
発生：この菌は、琉球の気候に適し、一年中発生することができる。とくに幼苗の時期には多くみられる。

病徴：茎の地際部に発生し、はじめかっ色の病斑が茎を囲み、その部分はあとで軟かくなってくびれ、そこから折れ曲り、しまいには、しおれて枯れてしまう。

病菌：この病菌は、主として菌糸によって繁殖し、伝染するが、暑いときには、まれに担孢子をつくり、また、培養すると粗面の菌核をつくる。菌糸は、はじめは無色であるが、のちには褐色になる。分岐部は細くくびれて直角に分岐する。菌糸の幅は、8~12ミクロンである。

防除：

1. 発病したら、直ちに400倍のウスプルンで、地際部と土壌表面を消毒する。
1. 種まき後2~3葉期まで、500倍のオーソサイドを畑全面に散布する。
1. 発病のはげしい苗畑は、種まき2~3週間前に、クロルピクリンで消毒する。
1. 排水と風通しをよくする。



写真説明

1. 立枯病にかかった幼いダイコン
2. 立枯病菌におかされたダイコンの種子から伸びた菌糸体
3. 立枯病菌の菌糸体 (150倍で写した)

1. 苗は、厳選して無病のものを栽植する。

ナス綿疫病

宿主：ナス、トマト、キウリ、スイカ、カボチャ、ヘチマ、ソラマメ、ゴマ、カーネーション、キンギョウウ、パパイヤなどに発生する。

発生：雨の多い時期に発生する。

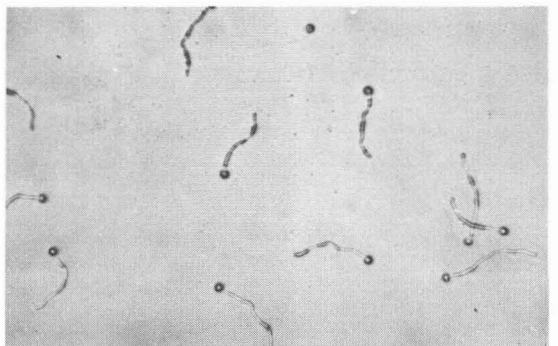
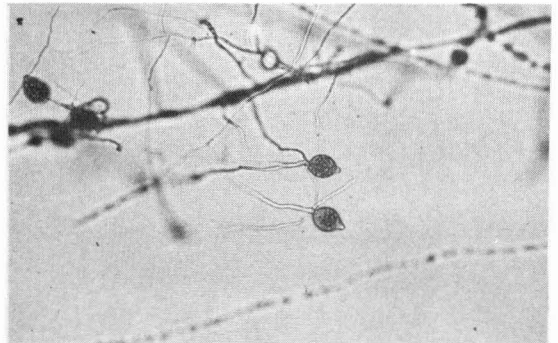
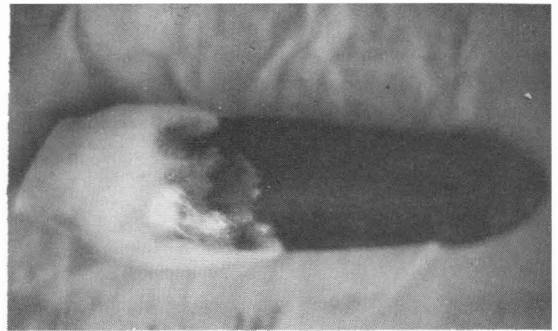
病徴：ナスでは、主として果実に発生するが、苗にも発生する。果実には、はじめ褐色円形の病斑ができ、これはのち次第に広がる。その内部は、軟かく腐れ、湿度が高ければ表面に白色の綿毛のような菌糸ができる。病気にかかった果実は、落ちやすい。

病菌：胞子のうは卵円形で、長さは18~76ミクロンで、幅は15~60ミクロン。頂端に乳首のような突起があり、発芽は主に数個から40個余りの游走子を出して発芽する。游走子は卵形で、大きさは11~14×6~8ミクロン。この病菌の発育の最適温度は、30℃である。

防除：

1. しき草をして、果実に土中または水中の病菌がつかないようにする。
1. 病気にかかった果実は、みつけ次第とり去って土中に深く埋める。
1. 連作をさける。
1. 排水をよくする。
1. ボルドー液を散布する。
1. オーツサイドを散布する。

(田 盛 正 雄)



写真説明

4, 綿疫病にかかったナスの果実

5, ナス綿疫菌の胞子のう(150倍で写した)

6, ナス綿疫菌の游走子(150倍で写した)